



# 松下賢一郎 議会レポート

発行責任者  
藤沢市議会議員  
松下賢一郎  
TEL 0466-34-4570  
matusita@tbb.t-com.ne.jp

## 「中学校給食」の実施に向けた検討状況について

中学生という時期は、成長に必要な栄養素の必要量が生涯の中で最も大きくなっていく時期であり、栄養バランスに配慮した食事を摂ることが重要な時期でもあります。



しかし、家庭環境の多様化などにより、毎日お弁当を持参させることが保護者の負担になるなど、栄養面に十分配慮したお弁当を毎日作ることは困難な状況にもあります。

さらに、中学生の朝食摂取率が低いことや、栄養バランスのとれた昼食を選択していないことなど、食生活・食習慣の乱れが指摘されるなか、給食は食育の一環としても重要な役割を果たすことから、「中学校給食検討委員会」を設置して実施への検討を求めてきました。

### 『中学校給食検討委員会』の検討状況

藤沢市教育委員会では、平成23年度から「中学校給食検討委員会」を設置して、中学校給食における食育の課題整理や県内を初めとする中学校給食の先進市の実施方法、経費などの研究を進めることになりました。検討会の委員長には、県立保健福祉大学の山本教授が就任し、委員として中学校長1名、小学校長1名、中学校教諭2名、栄養教諭1名、職員組合1名、PTA代表2名、教育委員会4名となっており、本年7月から計4回の委員会が開催されました。

検討委員会では、藤沢市の給食の状況をはじめ、全国及び神奈川県の中学校給食の実施状況について、また、中学生をとりまく食の現状や給食に係る経費について検証するとともに、センター方式による完全給食を実施している厚木市の視察や、デレバリー方式による中学校給食を実施している海老名市の視察が行われてきました。

今後の予定としては、藤沢市における中学校給食のあり方の基礎となる意見を集約し、また、厚木市や海老名市の視察の成果も含め、中学校給食の実施形

態による、経費やメリット、デメリット等をまとめ、中間報告としてまとめていくこととなります。

また、当事者である中学生、そして保護者から意見を聞くためのアンケート調査の実施検討については、「中学生になると男女で食べる量の差が大きくなるので学年別だけでなく男女別も取る必要がある」「小学生からも取ったらどうか」などの意見があり、給食について色々な視点から検討を進めながら、この検討に基づく視点をアンケートの中に盛り込み来年には実施する予定となっています。

中学校給食実施にむけた見通しについては、平成24年度には今年度の中間報告を受け、検討委員会を開催し、一定の方向を打ち出すことが検討されています。

### 『小学校給食』にける課題解決について



中学校給食を実施するにあたり大前提となる小学校給食調理場単独校化については、平成24年4月には本町小学校単独調理が開始となり、平成25年度の滝の

沢小学校と駒寄小学校の単独校化に向け平成24年度に施設整備する方針となっており、これにより小学校の給食調理場単独校化が終了することとなります。

また、アルマイト食器から磁器食器への食器改善は、食器ワゴンを使用している学校はすべて改善されましたが、藤沢・明治・辻堂・鶴洋・片瀬・長後・八松・富士見台の8校については、児童が食器かごを持って運ぶなど、磁器食器はアルマイト食器に比べ大変重いため、改善するには食器ワゴンを導入し、エレベーターの設置や段差の解消など、多額の改修費用が必要となってくることから、環境ホルモンを含む原料を使用しておらず、酸化防止剤等の添加剤も含まれていない「樹脂食器」の導入を検討しており、平成24・25年で移行する方針です。なお、合同調理場の滝の沢小学校と駒寄小学校については、単独校化の際に磁器食器へと改善されることとなります。

